平成30年度

授業改善推進プラン

大田区では、昨年に続き平成３０年４月に、「大田区学習効果測定」を行いました。

本校は、その結果に基づき、本校の課題と、その課題の解決を図るための方策を整理し、「授業改善推進プラン」を作成しました。この授業改善推進プランに基づき学力向上に向けた取り組みを推進してまいります。

平成30年8月

大田区立大森第四小学校

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校　国語科）

１　国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果

・音読は、家庭学習でも継続して練習してきたため、意欲的に取り組む児童が増え、「読み取る力」を高める効果にもつながった。
・話型指導を行い、子どもたちは丁寧な言葉を意識しながら発表している。
・視写や作文の機会を増やすことにより、字を書くことに、より一層、習熟してきた。
・読み聞かせの機会や読書の時間を確保したことで、読書に興味をもって取り組むことができた。
・物語文の読み方に慣れてきて、意欲的に人物の気持ちを考えようとしている。読むことについては、文章を読むときに、大切な言葉や文に線を引きながら読むことで、内容の理解を深めている。
・説明的な文章では、中心となる語句や文を押さえると共に、筆者の主張がどんなことなのかを考えながら、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える読みを重視したことで、深く読み取れる児童が増えた。
・国語の特質に関する事項の指導時間を十分にとったことにより、言葉への理解を確かなものしていくことができた。
・校内研究で「読むことを通して」を取り組むことにより、読み取る力がついてきた。

課題

・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の理解が十分ではない。
・読書量が少ない。
・漢字の習得率が低い。
・文章を書く習慣が定着していない。
・読む能力が低い。

２　国語科における課題・改善策

	意欲・関心	話す聞く	書く	読む	言語事項
課題	・読書の習慣が身に付いていない児童がいる。 ・文を書くことや漢字を習得しようとする意欲がもてない児童がいる。 ・文章を見直す習慣が身に付いていない。 ・授業中にあまり発言しない児童がいる。	・順序よく、分かりやすく話すことが難しい。 ・大事なことを落とさずに聞くことが難しい。 ・互いの考えの相違点や共通点を考えながら聞いたり話したりすることが難しい。 ・適切な言葉遣いや話し言葉、書き言葉が定着していない。	・順序立てて文章を書いたり、内容を膨らませて書いたりすることが難しい。 ・構成を考えて書くことが難しい。 ・自分の意見と理由を区別して書けないことがある。 ・話し合ったことをまとめることが難しい。	・何のために読んでいるのか分からないことがある。 ・文章を読んで自分なりの感想をもてないことがある。 ・内容を正しく読み取れないことがよくある。	・ひらがな、カタカナを正しく書けない児童がいる。 ・漢字の読み書きが十分にできない児童が多い。 ・語彙数が少ない。 ・助詞や指示語、連用修飾語について理解していない。

改善方針	・普段から本を読んだり文章を書いたりする活動を取り入れる。 ・書くことの大切さの具体的な指導とともに、書くことが楽しく感じる工夫を行う。 ・漢字テストなどの目標を決めて取り組ませる。 ・発言しやすい学級の雰囲気を作る。	・話型を示す。 ・聞く姿勢、態度を普段から身に付けさせるようにする。 ・大事なことは何かを考えながら話したり聞いたりするように指導する。 ・正しい日本語を意識させる。	・書きたいと思う課題を設定する。 ・書く機会を増やして、書くことに慣れるようにする。 ・文型を示す。	・全員で話し合って解決したい課題を設定する。 ・身近な経験や友達の考えを参考にさせる。 ・音読がしっかりできるようにする。 ・文章中の大事な言葉を見付けながら読ませるようにする。	・正しい言葉の使い方を身に付けさせる。 ・漢字を使った「言葉集め」や読書に親しませることで語彙を増やす。 ・家庭学習の取り組みを充実させる。 ・単語や成り立ちなど意味を考えて書くことを繰り返し練習させる。
改善策1年	・読み聞かせや図書の授業を充実させ、読書に親しむ心を育てる。	・話型を提示し、スピーチを通して、順序を考えながら話す力を付ける。	・「せんせいあのね」の短作文を取り入れ、書くことに対する抵抗感をなくす。	・話し合う価値のある課題を設定することで、児童がすすんで読むことができるようにする。	・文字の学習では使い方の例を多く出し、文章中で正しく使えるようにする。
2年	・短作文など、児童の負担が少なく、楽しみながら書けるような授業展開の工夫をする。	・話型を提示しスピーチをしたり、大切なことをしっかり聞いたりする指導をしていく。	・書いた作文について、見直しをさせる機会を設ける。	・自分の生活体験と比べながら読むように指導する。	・興味がもてる図書を紹介し、いろいろな本に親しませる。
3年	・学年で合格点を決めて、目標をもって課題に取り組ませる。	・聞く姿勢や態度について指導していく。	・宿題で３行日記を書かせて、書くことに慣れさせる。	・授業の中で音読のチェックをして、読み方の指導を徹底する。	・授業で学習したことを家庭学習でも繰り返し取り組ませる。
4年	・本の紹介をしたり、自分の意見を書いたりする機会を設ける。	・話し合う内容を明 確にして、整理しながら行うようにする。	・文型を使って書くことに慣れさせる。	・大事な言葉に印を付けたり、要点を確認させたりする。	・習った漢字を使った単語や文章作りを行う。
5年	・日記や意見文を書く機会を多く設けたり、本の紹介を行ったりする。	・普段から敬語や常体、敬体を意識させ、話をしたり文章を書かせたりする。	・文型を示し、書くことに慣れさせる。	・物語、説明文の内容を読み取る学習時間を十分にとる。	・物語や説明文を読む際に、常に言葉のきまりについて意識させる。 ・ゲームやクイズなども取り入れて、苦手意識をなくすようにする。
6年	・読書カードを活用して読書の意欲付けをする。 ・発言しやすい雰囲気作りをしていく。	・書くことの目的や意図を明確にするとともに、書いたものを見直したり、助言し合ったりする時間をとる。	・活動報告書を書く活動を取り入れる。	・物語、説明文の内容を読み取る学習時間を十分にとるとともに、要旨をまとめる活動を取り入れる。	・漢字の読みを書く活動を取り入れる。 ・漢字の読みのテストを定期的にする。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校社会科）

１　社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

成果

＜中学年＞

・見学や体験学習を取り入れることにより、社会科に対する意欲・関心が高まり、学習内容の理解がすすんだ。

・社会的経験の不足を補うため、見学や体験を取り入れたり、視覚的資料を活用したりすることは有効であった。

＜高学年＞

・学習のめあてをもたせたり、視聴覚教材を提示したりすることで意欲的に学習することにつながった。

・課題に対して文章で答える機会をもった。また、グラフの読み取り方を細かく提示したことで、資料の読み取り方が分かる児童が増えた。

課題

＜中学年＞

・学習効果測定においては、昨年度より約５ポイント下回った。

・調べ学習において、資料を読み取って分かったことや、自分の考えを適切に表現することが難しい児童が多いため、資料を正確に読み取らせ、複数の資料を比べて共通点や相違点に気付かせたり、めあてに沿って考えさせたりすることの改善が必要である。

＜高学年＞

・全般的に平均正答率が昨年度より下回った。このため、児童の関心・意欲を高めるような教材を提示して、学習活動を行わせることが必要である。また、複数の資料を読み取り、比べ、めあてに沿って考え、ペアやグループで話し合いをさせ、フラッシュカードや復習プリントなどを用いて既習事項を定着させたりする必要がある。

２　社会科における課題・改善策

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
課題	・社会的事象について積極的に学習したり、資料を読み取ったりすることへの関心が低い。	・資料を読み取ったことからめあてについ考えることや、他の資料と比較しながら特徴を捉えることに課題がある。	・様々な資料を読み取ったり、活用したりする力が不十分である。	・地図記号や方位などの理解が不十分である・既習事項の定着に課題がある。
改善方針	・単元導入時の工夫やめあてをもたせて学習させることで関心意欲を高める。	・資料を読み取ったことから自分の考えをもたせる。資料を比較する力を高める。 ・自分の考えを話し合う活動を取り入れる。	・めあてに沿って、調べる観点を明確にさせてから、資料を読み取らせる。 ・資料の読み取り方を丁寧に指導する。	・地図帳を活用する機会を増やす。 ・既習事項を定着させる工夫をする。
改善策３年	・教科書の資料だけではなく、教員が教材を用意する。 ・体験や実物などを用いる。	・写真や資料を２種類用意し、違いや同じところなど比較する活動を通して、特徴をノートにまとめられるようにする。	・グラフや表の読み取り方を、その都度丁寧に指導し、ノートにポイントを書かせる。	・社会科で使用される語句を、授業の始めに復習し、知識の定着を図る。
４年	・実物や模型、映像資料、ニュースや新聞などの記事など児童が興味を示しそうな資料を活用する。	・収集した情報をできるだけ正しく記録させ、まとめたり発表させたりする。	・棒グラフ・折れ線グラフ等のグラフの読み取り方や地図帳の使い方を丁寧に指導する。 ・複数の資料を関連付けて考えさせる。	・地図帳を使う機会を増やしたり、ミニテストを行ったりして地図記号や都道府県などを確実に覚えさせる。

5年	・児童が調べてみたいと思うような資料を提示し、そこからめあてを考えさせる。 ・既習事項や体験したことを生かせるように児童に想起させ、その内容を板書して提示する。	・ペアやグループ等で交流することや、教師のモデルを示して資料を読み取ったことから自分の考えをもたせられるようにする。	・めあてに照らし合わせて、調べる観点を明確にした上で資料を読み取らせる。 ・複数の資料を関連付けて考えさせる。	・世界の国々や農業、工業で学習した内容をフラッシュカードやミニテスト等を活用して知識の定着を図る。
6年	・児童にとって身近な教材や、意外性のある教材を提示して、児童の関心や意欲を高める。	・めあてに沿ったことを考え、表現する場面を多く設ける。 ・ペアでの話し合いをすることで、自分の考えを自信をもって表現できるようにしていく。	・表やグラフなどの資料を読み取る際、何を表している資料なのか、横軸・縦軸は何を表しているのか、一目盛はいくつ分を表しているのかなど丁寧に指導する。	・歴史上の人物やその人物が行ったことなど学習した重要語句を、定期的に復習させて知識の定着を図る。

平成３０年度　授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校算数科）

１　算数科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

＜成果＞

・具体物を操作したり、図をかいたりする算数的活動を取り入れたことにより、数の合成・分解ができるようになったり、図形の性質について理解できる児童が増えた。

・算数的活動を多く取り入れたことにより、大田区効果測定の結果でも、図形領域で４，５，６年全ての学年で区の目標値を上回った。

・文章問題では分かっていることや演算決定のキーワードに線を引くなど、分析的に解かせ、正しく立式する児童が増えた。

・少人数・習熟度別での学習を行ったことで、個々のつまずきに素早く対応できた。

・授業の中で児童同士の考えを発表し合わせ、多様な考えを学び合わせたり、数量については、式と図を関連付けて考えられるよう重視させたりすることで、目標値を上回ることができた。

・朝学習の時間や家庭学習でプリント等を使って繰り返し計算練習をさせた項目では一定度の定着が見られ、区の目標値を上回る領域もあった。

＜課題＞

・文章問題で何が問われているのかを読み取り、正確に立式し、正しく答えを書くのが難しい児童がいる。

・10 以上の計算、かけ算の九九など基礎となる計算が定着していないので、その後のわり算や小数の計算が理解できない児童がいる。今後は基礎的基本的な計算を身に付けられるように繰り返し復習を行う必要がある。

・単位についての実感を伴った理解が育っておらず、単位換算が不正確である。

・具体物や数直線などを用いて学習内容を実感して理解させると共に、既習事項を定着させることを通して「算数の関心・意欲・態度」を高めていく必要がある。

・高学年になって学習する小数・分数の計算、百分率とグラフ、割合等の理解が不十分である。数量関係領域の学習効果測定の結果は区の目標値を下回る児童が目立ち、復習を繰り返し定着を図っていく必要がある。。

２　算数科における課題・改善策

	意欲・関心	数学的な考え方	技能	知識・理解
課題	・算数に自信がある児童と難しいと苦手意識を感じる児童の差が大きい。 ・算数に意欲的に学習しようとする児童が少ない。	・自分の考えを上手に説明できない。 ・文章問題から立式することができない。 ・既習事項を生かして問題の解き方を考え表現することに課題がある。	・四則計算技能が定着しない。 ・特に、小数と分数の計算に課題がある。 ・「時間と時刻」および「単位の換算」に関して特に習得率が低い。	・理解度に差が大きい。 ・「時間と時刻」「長さ」「かさ」まどの「単位の換算」に関して、基礎的な知識が乏しい
改善方針	・楽しみながら数や図形の概念を身に付けさせるなど授業スタイルを見つめ直す。 ・スモールステップで授業を展開していく。 ・授業の導入を工夫し、学習への意欲を育てる。	・具体物を活用して、具体的なイメージをもたせる。 ・問題解決型の学習を取り入れる。 ・数量の関係を表やグラフを用いて表す活動を取り入れる。 ・式を数直線や図などと関連付けて考えさせ、自分の考えを説明できるようにする。 ・ペアなどで話し合う活動を取り入れる。	・繰り返し取り組ませる。 ・反復学習および日常の生活体験に結びつけた学習をさせる。 ・九九を定着させる。 ・繰り返し計算練習をする。 ・ドリル学習を繰り返し行い、基礎的計算方法の定着を図る。	・具体物や具体例を用いて説明したり考えさせたりする。 ・日常の生活体験に結びつけた学習をさせ、量感を掴めるようにする。 ・反復学習をさせて基本的学習内容を定着させる。

改善策1年	・導入や終末で数を使ったゲームや復習を取り入れ、意欲を高める。	・具体物を使って説明させる。 ・ペアで説明し合う。	・家庭学習で計算カードの反復練習を行い、計算技能の定着を図る。	・授業の中で既習事項を確認する場面を設け、知識の定着をチェックし、指導に生かす。
2年	・読む→聞く→話し合う→書く→友達のノートを見るなどの変化を付けた授業展開を心掛ける。	・簡単な図で表現し、数値を記入させることで、「目に見える」形にする。	・１m=１００ｃmや６０分=１時間などの関係を日常生活で適宜、意識させる。 ・反復練習を行い、計算技能の定着を図る。	・「長さ」や「時間」について、自分の身の回りに存在する具体物・具体的事象を常に意識させる。
3年	・基本的な計算方法や既習 事項など振り返り、自分が理解できていることを確認する時間を設ける。	・見通しをもち、筋道立てて考えたことをノートに記入したり、話し合わせたりして多様な考え方に気付けるようにする。	・計算カード等を利用して、くり上がり・下がり、かけ算九九を復習する時間を定期的に設ける。	・具体物を提示したり、計測等をしたりする時間を設ける。 ・作業的・体験的な活動を多く取り入れる。
4年	・基本的な計算方法や既習事項など振り返る時間を設ける。	・考え方の方法を提示し、自分の考えをノートに書いたり、友達同士で発表し合ったりする時間を設ける。	・計算スキルやプリントを活用し、計算、文章題等に繰り返し取り組ませる。	・テープ図や数直線、図など、自ら活用できるように、指導していく。
5年	・問題場面を身近な生活体験と結びつけて提示し、問題が実感をもって捉えられるようにする。	・既習事項を使って自分の考えをまとめたり発表したりできるように、既習事項を掲示したり、復習させたりする。	・計算のポイントを説明し、ミニテストを繰り返し行わせ、計算する力を高める。	・学習内容を丁寧に説明し、それを掲示物にしたり、繰り返し問題を解かせたりして定着を図る。
6年	・基本的な計算方法や既習事項など振り返る時間を設け、次の学習の見通しをもたせる。	・考え方の方法を提示し、自分の考えをノートに書いたり、友達同士で発表し合ったりする時間を設ける。	・計算スキルやプリントを活用し、計算、文章題等に繰り返し取り組ませる。	・課題に合わせてテープ図や数直線、図など、自ら活用できるように、指導していく。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校理科）

１　理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果

・実験や観察をする機会を多く取り入れたことで、意欲的に学習に取り組み、よく理解できた。

・課題提示→予想→予想理由→実験→結果→考察→結論などの学習過程を繰り返し指導することで、児童が学習の流れを理解して取り組むことができた。

・考察や分かったことなどの書き方を示したり、思考の時間をとったりしたことで、自分の考えを書ける児童が増えてきた。

・昨年度の校内正答率と比べていくと、４年生は５ポイント上昇し、特に物質・エネルギー領域の思考問題は区目標値を上回った。６年生は、昨年度の正答率に比べ１２．６ポイント上昇し、生命・地球領域の思考・知識問題が区目標値を上回った。５年生は、校内正答率は昨年度よりも下がったが、生命・地球領域の気温の測り方に対する問題は昨年度より１４ポイント上昇した。また、物質エネルギー領域の思考問題の正答率が上昇した。３学年とも思考問題への力が付いているといえる。

課題

・実験の予想ができない児童がいる、予想ができても予想の理由を書くことができない児童がいる。

・実験や観察をしたことで技能や知識も定着が見られた。しかしそこから更に発展して考えたり、考察をしたりすることが力を高めていくことが必要である。

・３学年とも物質・エネルギー領域の知識・理解が目標値より低く、不十分な傾向にある。

２　理科における課題・改善策

	意欲・関心	思考・判断・表現	技能	知識・理解
課題	・実験・観察は意欲的に取り組んでいるが、本時の課題と単元全体の課題をつなげて考えられない。	・実験方法や結果、考えを自分の言葉で説明したり書いたりすることが難しい。	・実験の手順でつまづいてしまう児童がいる。 ・課題に即して、なぜその実験をするのかを明確に理解していない。	・学習したことが定着していない。 ・既習事項と結び付けて考えにくい。
改善方針	・実験だけでなく、視覚教材や体験活動を増やす。 ・授業の導入で振り返りを行う。 ・課題を明確にし、分かりやすく学ばせる。	・課題→予想→予想理由→実験方法→結果→考察の流れを定着させる。 ・考察の書き方の例示をする。 ・分かったことに対して意見交流する。 ・思考の時間を十分に取る。	・班で教え合わせる。 ・図や師範実験でイメージをもたせる。 ・手順の意味を理解させる。 ・実験の際、一人１度は実験できるよう配慮する。	・単元がつながるように、視覚教材を用いて前の単元のふり返りを行ってから単元に入る。 ・既習内容を普段の生活や授業に結び付けさせる。
３年	・植物や昆虫を実際に育て、生き物への愛情を育む。 ・実際に触れたり体験させたりすることで、意欲・関心を高める。	・　実験や観察を通して、差異点や共通点を考察したり、予想や仮設をもたせたりする時間を設け、ノートに記入させていく。	・一人一人が実験器具を使うことができるように、活動場面を多く設定する。	・植物や昆虫を実際に育て、成長のきまりや体のつくりの理解を図る。 ・観察カードやワークシートへの記入、実験についての話し合いをさせ、考えを深めたり自分の考えを伝えたりする時間を設ける。

４年	・何のために実験をしているのか考えられるよう課題に戻りながら実験を行わせていくことで意欲・関心を継続させていく。	・考察の書き方を毎時間提示する。 ・実験内容や結果など自分の言葉で説明させる機会を増やす。	・教師が手本を示したり、例を提示したりする。 ・班で友達と相談しながら活動させる。	・まとめを丁寧に確認する。 ・既習事項と関連付けて考えられるような声掛けを行う。
５年	・視覚教材や実物の観察や実験などの体験を多くすることで、意欲・関心を高める。	・課題→予想→予想理由→実験方法→結果→考察の流れを定着させる。	・実験の記録を正しく記録できるようにする。また、実験の記録結果や詳しい情報を考察に取り入れられるようにする。	・視覚教材を用いて既習事項のふり返りを行ってから単元に入る。
６年	・単元の導入で、身近なものや体験したことを想起させることで関心をもたせ、授業では視覚教材や実験体験を取り入れ、意欲付けをしていく。	・考察の書き方を提示する。 ・予想や考察の前に、自分の気付きや考えを他者と交流することで、客観性をもって考えさせたり自分の間違いに気付かせたりする。	・ノートに実験の図を書かせ、自分でも確認できるようにさせたり、示範実験を見せたりする。 ・実験の手順の理由を理解させる。	・理科で学んだものを日常の身の回りにあるものと関連して考えさせる。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校生活科）

１　生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

１年

成果

・一人ひとりに朝顔の鉢を持たせて関わらせることで、植物の生長の変化を楽しみ、観察の視点を見つけることができた。

・学年のプランターにコスモスを植え、観察することで植物への関心がひろがった。

・２年生に連れて行ってもらった学校探検から発展して、グループで学校探検やインタビューを行い、学校と地域に関心をもつことができた。

・近くの広場で遊ぶ機会を設け、季節ごとの遊びに関心をもち、楽しく遊ぶことができた。

・区立保育園との交流会を通して、自分たちの成長を確認し、２年に進級する意欲や自己肯定感を高めていく。

課題

・感じたこと、気付いたことを言葉で表現することが難しい児童がいる。

・自然が少ない環境の中で、地域の自然を活用する機会を増やす必要がある。

２年

成果

・ゲストティーチャーとの交流を深めることができた。

・年間を通して、生き物への愛着をもたせ続けることが徐々にできてきた。

課題

・ゲストティーチャーから学ぶべきことへの意識が不十分だった。

２　生活科における課題・改善策

	意欲・関心・態度	思考・判断・表現	気付き
課題	・学校に自然が少ない。季節を感じることが難しい。（１年） ・学んだことを次に生かしていこうとする意欲が薄い。（２年）	・何を見てどう表現していいか分からない児童がいる。（１年） ・自宅外の「地域」について、思いを巡らせることが難しい。（２年）	・深い気付きにつながらない。（１年） ・地域内の様々な施設の役割に気付かない。（２年）
改善方針	・地域の公園や育てている植物を活用する。（１年） ・自分の住む地域に誇りや愛着をもてる気持ちを育む。（２年）	・見る視点をはっきりさせる。（１年） ・自分の生活を支えているのは家族だけではないことを考えさせる。（２年）	・学校だけではなく、地域の人材や自然を活用する。（１年） ・昔から存在する神社や公共の建物などの存在と役割に気付かせる。（２年）
改善策１年	・毎日継続して植物の世話を行うことで、成長の変化に関心をもたせる。	・観察する際、見る視点を定め、より具体的に変化を捉え表現できるようにする。	・地域や学校の職員との交流を多くもつことで、より深く具体的な気付きにつながるようにする。
２年	・ＰＴＡの方々や地域に貢献してくださっている方への感謝の気持ちをもてるようにする。	・自分たちが住む、「大森南」という町の特徴を考えさせる。	・地域内の図書館・神社・児童館・公園の役割に気付く。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校音楽科）

１　音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果

・音楽表現の意欲を高めるために、低学年では身体表現やリズム遊びを多く採り入れ、また、鍵盤ハーモニカは外部講師を招いて基本となる奏法を身に付けることで楽しんで表現する児童が増えた。中・高学年では歌唱や楽器演奏の基礎的な技法の指導を積み重ねたことで、積極的に音楽表現をしようとする児童が増えた。

・楽曲にふさわしい音楽表現を工夫するために楽曲の気分や雰囲気を感じさせるように音楽の要素や用語を多く用い、グループ学習を行うことで表現の手段を考えたり選んだりできる児童が増えた。

・技能については、簡単な聴音や階名唱や、呼吸やタンギングのための具体的な体の使い方、楽器の奏法などを毎時間繰り返すことで、積み重ねている。リコーダーは演奏できる楽曲を多く用意し、自分に合った曲を選んでチャレンジできるようにし、技能の向上がみられている。

・鑑賞については、楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を感じて表現するために言語に限らず、身体表現や絵、図なども用いてよいとすることで、語彙の少ない児童が感受の表現をできるようにした。

課題

・意欲は技能の裏打ちがないと音楽表現への取り組みが難しくなり、学習のルールが守れなくなっていく。

・音楽表現の工夫は、技能が身に付いていないため、自分がどんな表現をしているかがわからなかったり、語彙や経験値が少なかったりするため、どんな表現をしたいか思いや意図をもてない児童が学年が上がるにつれて増えていく傾向がある。

・技能については　歌唱は、低学年の元気に歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなる。器楽では繰り返し個人指導を行っているが、鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少せず、学年が上がるにつれて個人差が開いていく。

・鑑賞については、曲の感じを身体表現であらわすことはできるが、感じたことや聴き取った旋律の特徴や音楽の要素を言葉でうまく表現したり説明したりすることについて個人差が大きい。

２　音楽科における課題・改善策

	意欲・関心	創意工夫	技能	鑑賞
課題	・高学年になるほど、多人数での合奏や合唱では音楽表現をするが、一人では音楽表現を恥ずかしがる傾向がある児童が増えてくる。	・学年が上がるにつれて、読譜や技能の習得の困難さや語彙の少なさから、自分なりの表現方法を工夫することが難しい児童が増えてくる。	・歌唱は、低学年の元気に歌うから、高学年の発声・発音・音程といったことを求められるにつれて技能の習得が難しくなってくる。器楽では鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得に課題がある児童がなかなか減少しない。いずれも個人差が大きく、つまずくと追いつくのが難しい。	音楽を聴いて曲想を感じることはできるが、音楽の要素や曲想を言葉で表現することが難しい。
改善方針	・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高める。	・楽曲にふさわしい音楽表現をするためにどうしたいか、どのような奏法を使うかなど、考えたことを伝えられるように身体表現の方法や語彙を増やす。	・基本的な奏法や読譜を繰り返し練習する。また、グループ練習やペア練習や個別指導を行うことで技能の向上を図るようにする。	・音楽の要素や曲想を表す言葉を覚えさせ、身体表現や言葉で感じたことや気付いたことを表現できるようにする。

改善策1年	・音楽に合わせて体を動かすことで、音楽表現を楽しいと感じさせる。	・歌ったり、演奏したりするとき、どのような工夫をしたら良いのかを考えさせる。	・階名唱や鍵盤ハーモニカの演奏、簡単な楽譜を読むことを繰り返し練習させる。	・音楽を聴いた感じを、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表す活動をする。
2年	・友達の歌や演奏を自分のものと聴き合い、認め合う機会を多く設け、音楽表現の楽しさを感じさせる。	・歌ったり演奏したりするときに、のびのびと自分の考えたことを表現してみる機会を与える。	・階名唱や鍵盤ハーモニカの演奏を繰り返し指導して、技能の習熟を図る。	・「ゆっくり・いそいでいる・ねむくなる・驚く」などの単語を、選択肢として提示する。
3年	・階名唱や視唱、リコーダーの演奏や読譜を繰り返し練習させ、特にリコーダーは個別指導をすることでやればできるという意欲と自信をもたせるようにする。	・範唱や範奏や楽譜から楽曲の特徴を感じ取り、自分でどう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて考えられるような選曲や楽譜の提示をする。	・階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。リコーダーはタンギングや基本的な指遣いを繰り返し指導し、必要に応じて個別指導も行う。	・音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるために、ワークシートや教室掲示の工夫をする。
4年	・互いに練習の成果を聴き合ったり、教え合ったりすることで、友達と積極的に関わる時間を設け、音楽表現をする事への意欲と自信をもたせるようにする。	・楽曲の特徴を感じ取り、どう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて、友達と意見を交換する活動を多く採り入れる。	・歌唱は発声や発音に気を付けて伸びやかな声で歌えるように体の使い方を指導する。リコーダーは右手の運指やサミングが使われる音域の運指の指導を繰り返し行う。	・音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。
5年	・個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、できることを増やすことで音楽表現への意欲や関心を高める。	・範唱や範奏や読譜から音楽の特徴を音楽の要素と関連させて感じ取り、自分の表現に生かすために楽譜への書き込みやグループでの意見交換を多く採り入れる。	・発声や発音の基礎練習を行い、体の使い方を体得させるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。	・音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素と関連させて聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。
6年	・個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、楽曲を仕上げることで達成感をもたせ、音楽表現への意欲や関心を高める。	・範唱や範奏や読譜から音楽の特徴や物語性を音楽の要素と関連させて感受し、自分でどう表現するか考えるために、楽譜への書き込みやグループでの意見交換や発表を多く採り入れる。	・発声や発音の基礎練習を行い、頭声発声のための体の使い方を体得させるようにする。楽器の基本的な奏法は繰り返し指導し、必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。	・曲想の変化や特徴を音楽の要素や学習したり、生活の中で聴いたりした音楽と関連させながら聴き取ったことを表現するために、鑑賞教材の提示の仕方やワークシートを工夫する。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校図画工作科）

１　図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

成果・はさみ、のり、段ボールカッター、電動糸のこぎりや彫刻刀などの道具の適切な使い方や絵の具の技法は、前学年から繰り返し指導することで、安全かつ積極的に活用する姿勢が増えた。
・板書により、活動内容を理解し、活動の見通しをもち、自分のめあてをもって表現する児童が増えた。
・絵の具の使い方の指導を通して、色づくりを進んで行う姿勢に繋がった。
・個別指導と担任との情報共有により、児童の理解を深めることができた。

課題・はさみやカッター、ステープラーやボンドなどを使った、紙を接合する技法の定着に個人差がある。
・自分の思い付いたものを絵に表したり、形にしたりして表現していくことが、苦手であると感じている児童がいる。
・高学年になるにつれて、絵の具の混色を面倒に感じる児童がいる。
・鑑賞した作品のよさや感じたことを、言葉で表す活動が難しい児童がいる。また、それぞれの作品のよさを自分の作品に活用していこうとする意欲が薄い。

２　図画工作科における課題・改善策

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
課題	・自分の表現を良くするために、主体的に取り組むことが難しい児童がいる。	・自分のイメージを表現する活動に難しさを感じている児童がいる。	・材料や用具の使い方は、経験をすることで楽しんで活用する意欲に繋がっているが、定着に個人差がある。	・鑑賞した作品のよさを言葉にしたり、自分の表現に活用したりする意欲が薄い。
改善方針	・お互いの表現を鑑賞して、自分の表現を深める時間を設けることで、表現を高め合い、自分のイメージを表現する楽しさを味わわせる。	・表現を試す場を設け、表現の過程を重視し、児童自身が自分のめあてをもつことができるようにする。	・学年が上がるにつれて表現の幅を広げることができるように、既習事項を繰り返し確認し、技能の定着を図る。	・鑑賞の機会を積極的に設け、鑑賞活動の意義や表現への活用を児童と共有する。
改善策1年	・表したいことについて話したり説明したりする時間を取り、自分のイメージを主体的に表現させる。	・すすんで表したいことを見付けられるよう、材料を選択できるようにする。	・はさみ、のり、絵の具等の道具は、使い方を確認しながら、繰り返し使っていくことで定着させる。	・友達の表現の工夫を見る場を設け、自分の表現に活用するようにする。
2年	・児童にとって身近なテーマや材料を取り上げたり、それぞれの表現のよさを全体で共有することで、興味をもって主体的に取り組むことができるようにする。	・材料と関わる時間を十分に設けて、児童が思い付いた表現を試すことができる場を設定する。	・ボンドやのりを使った素材の接着や、絵の具に混ぜる水の調節を繰り返し確認し、使い方を定着させる。	・鑑賞の時間を通して、自他の作品に関心をもち、お互いの感じ方や考えのよさを認め合い、いろいろな形や色や触った感じなどを捉え、自分の表現に活用するようにする。
3年	・お互いの表現を共有して、自分の表したいことに合った表現を考える時間を設け、自分が表現の主体となって表す楽しさを味わわせる。	・自分に合った表現や自分のめあてが考えられるよう、材料と関わる時間を十分に設け、ワークシートや板書を活用する。	・絵の具に混ぜる水の加減や筆の使い方を自分のイメージに合わせて工夫できるように、絵の具の使い方を繰り返し確認して定着させる	・友達と作品を鑑賞し合う機会を設け、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどを捉え、自分の表現の工夫を友達に伝えることができるようにする。

4年	・表現を試すことができる場を設けることで、友人とともに表現を高め合い、児童それぞれが自信をもって自らの表現を決定していくことができるように指導する。	・ワークシートや板書を活用し、児童が自分の表現の意図を考え、計画を立ててつくることができるように指導する。	・道具を活用した絵の具の技法や、のこぎり、彫刻刀の使い方を学ばせ、表現の幅を広げさせる。	・作品の経過を全体で共有する機会を設け、お互いのよさを自分の表現に活かし、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどを捉えることができるようにする。
5年	・友人の表現の過程や参考作品を共有する機会を設けることで、お互いの表現を認め合い、それぞれの工夫を表現に活用していく姿勢を養わせる。	・ワークシートや板書を活用し、児童がつくりたいイメージを整理し、表現したいことを試しながら表現できるような場を設ける。	・電動糸のこぎりの使い方を学び、既習の絵の具の使い方を自分の表現に活用させ、児童自身が材料や用具の効果に気付くことができるようにする。	・参考作品や自他の作品を鑑賞する機会を設け、動きや奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉え、自分の表現に活用することができるようにする。
6年	・友人の表現の過程や参考作品を共有する機会を設ける。気が付いたことを基に自分らしい表現を考えられるように指導する。	・つくりながら表現を試行錯誤できる場を設けて、自分の表現を構想し、納得できる形や色を考える姿勢を養わせる。	・電動糸のこぎりやのこぎり、彫刻刀などを用いた効果の既習事項を確認し、児童の表したいことに合わせた、効果的な表現ができるように指導する。	・参考作品や自他の作品を鑑賞する機会を設け、動きや奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを捉え、自分のイメージと表現の工夫を関連付けられるようにする。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校家庭科）

１　家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

・身近な課題を与えたことで、関心・意欲が高まり、初めて学ぶ学習に興味と関心をもって意欲的に取り組んだ。一人作業だけでなくペア・少人数グループの学習を取り入れ、衣食住に関わる実践的、体験的な活動を行ったことで、「できる自分」へと成長していることに気づくようになった。これからの自分の成長について展望できるように工夫する。

・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連づけることができる児童は多いが、それを自ら家庭生活へ広げて工夫できる児童は少ない。

・写真、ビデオ、学び合い、個別指導などを通して、個人差はあるが基礎的・基本的な技能が身に付いた児童は多く、効果的であった。しかし、時間が空くとできなくなってしまう児童が多かった。そのため、継続して確実に技能が定着するように、毎学期ごとに裁縫の学習を行う必要がある。学習を振り返り、繰り返し行うことが、技能の定着に効果的であった。今後も継続していく。

・ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習を取り入れたことで、家庭科で学んだ知識を日常生活と関連づけて考えることができた。しかし、実際に家庭生活に生かしている児童は多くない実態がある。

２　家庭科における課題・改善策

	家庭生活への関心・意欲・態度	生活を創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての知識・理解
課題	・実習や体験学習には互いに協力して取り組むが、家庭生活への関心を高め、生活に活かしていこうという意欲は十分ではない。	・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連づけ、家庭生活へ広げて工夫できる児童は少ない。	・手縫い・ボタン付け・ミシン・調理等の基礎的な技能の個人差が大きく、製作では進度に差が見られる。	・生活上の課題を解決するための知識が十分とは言えない。
改善方針	・家庭で取り組む課題を与えて、家庭での協力を得ながらできる事が増えていることに気付かせる。	・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付けて、家庭生活で活用できるように自分の生活に目を向けさせる。	・製作の過程や出来上がりの写真、ビデオの活用、実演、友達同士の学び合い、個別指導等を通して基礎的・基本的な技能の定着に取り組ませる。	・確実に知識・理解を定着させるために、既習の単元の知識・理解と関連付けながら学習を進める。
改善策５年	・授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませる。	・調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、工夫していけるように発表し合う場を設ける。	・実習や製作では、製作見本を細かく準備することで、基礎的・基本的な技能の定着を図る。また、個別指導、励ましの声掛けを多くする。	・ミシンの学習では手縫いの学習での内容を関連付けながら、手順やミシンの部品の名前を覚えられるよう指導する。
６年	・授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での調べ学習等に取り組ませ、家庭での取り組みを共有する場を設ける。	・調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、工夫していけるように発表し合うことに取り組ませる。	・実習や製作では、製作見本を細かく準備し、基礎的・基本的な技能を活用する。また、個別指導、励ましの声掛けを多くし、児童同士の学び合いを支援し、取り組ませる。	・調理実習では５学年での栄養素の学習を関連付け、食品の分類を再確認しながら学習を進める。

授業改善推進プラン　教科ごとの改善プラン（小学校体育科）

１　体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

成果
・校舎改築３年目になるが、目立った体力の低下は見られていない。
・学習カードを用いて、毎時の授業のポイントや自分の必要な練習を理解させることで、自分のめあてに向き合いながら意欲的に運動する児童が増えた。
・アドバイスをしたり見合いをしたりする学び合いを通して、少しずつではあるが運動の工夫の視点を身に付けさせることができた。

課題
・校舎改築に伴い、運動量の確保が難しい。
・持久力と握力が弱い傾向にある。
・年齢を重ねるごとに、技能差が顕著に表れている。
・考えながら運動をするのが難しい児童が多い。
・泳力が年々低下する傾向にある。

２　体育科における課題・改善策

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
課題	・勝敗を受け入れたり、お互いを認め合ったりする態度はさらに身に付けさせる必要がある。	・運動の動き方や動きのポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶことができていない。	・運動時間の減少により、技能差か広がってきている。	・健康や安全な生活についての指導した知識を自分たちの生活に生かすことのできない児童がいる。
改善方針	・関心・意欲・態度は常に指導していく。望ましい態度の児童を称賛する。また、安全面については怪我につながる恐れがあるので、厳しく指導する。	・友達と見合ったり教師が声を掛けたりして、よい動きや運動のポイントについて理解させる。	・休憩時間に積極的に外遊びをするように、学校全体で取り組んでいく。 ・スモールステップで指導していく。	・自分たちの生活についてふり返らせ、身近なことを用いて自分事として捉えさせる。
改善策１年	・安全に楽しく運動できるためのルールを最初に提示する。	・友達と動きを見合う場面を作り、よい動きを見付けられるようにする。	・運動量を確保する。 ・感覚を身に付ける準備運動を取り入れる。	
２年	・ダンスや縄跳びなど手軽に挑戦できる運動を経験させる。	・児童のよい動きに注目させるような声掛けし、児童がよい動きを理解できるようにする。	・バランス感覚やリズム感を養えるよう、スモールステップを踏まえて段階的に取り組ませる。	
３年	・スモールステップを踏んだ学習活動にする。苦手な児童が少し頑張ればできそうだという気持ちをもてるように授業を組み立てる。	・振り返りカードを書く習慣をつける。書き方を指導するために、教員自身が学習のポイントを明確にもつ。書き方が上手な児童のカードを全体に共有する。	・スモールステップを踏んだ学習活動にし、どの児童も到達できそうなめあてをもてるようにする。	・自分の生活や身の回りの生活環境について、実際に行いながら指導する。

４年	・スモールステップで誰でも取り組みやすい運動から取り組ませる。	・友達のよい動きを見付けたり、励ましあったりできるようにする。	・学習カードや掲示物などを活用し、自分にあったためあてをもつとともに、技能向上のためのポイントを理解させる。	・規則正しい生活習慣を身につけさせるために保健の授業を行うとともに、養護教諭・栄養士と連携し、自分の生活習慣や体の発達・発育について正しい理解をさせ、健康的な生活をおくるための実践的な指導を行う。
５年	・ペアやトリオ、グループを作る時にアドバイスし合えるような構成にする。	・教師→児童だけでなく、児童同士で声を掛けられるように、見る時の視点を与える。	・スモールステップで教えていく。 ・感覚づくりの準備運動を多く取り入れていく。	・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。
６年	・児童の実態に合わせてルールを工夫し、安全に運動するためのきまりなどについて十分理解させるために、単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮についての指導を行う。 ・見通しをもたせて学習させることで、意欲を高める。	・学習カードを活用し、運動で工夫したところ、次回頑張りたいことなどを振り返ることで、学習のポイントを考えさせる。 ・一人一人が自分に合った課題をもてるようにする。場の設定を工夫し、運動のポイントを示したり学び合いをしたりすることで、課題を解決できるようにする。	・技能が高い児童を手本として見せたり、動画を見せたりすることで視覚的にイメージをもたせるようにする。 ・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。 ・達成感を味わえるように、段階を踏んだ指導をする。 ・指導を工夫し、運動量を確保する。	・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。